

AL

ANAHEIM

LABORATORY LOG

アナハイム・ラボラトリー・ログ

【第2話：アクシズからの帰還①】

1

宇宙世紀0084年9月。サイド3のジオン共和国の宙域を中心に、地球圏全域において、ジオン残党軍に対する大規模警戒網が敷かれていた。前年に起こったデラーズ・フリートによる大規模なテロ事件は、地球圏に残るジオン残党軍の活動を活性化させるいい材料となっていた。事実、一部のジオン軍残党は、ジオン共和国への大規模テロ「シルバールンズ事件」などを引き起こしており、戦後という安心感を気軽に享受できる状況ではなかった。

そんな中、地球連邦軍は、一部の情報筋からアステロイドベルトにある資源採掘衛星アクシズへと逃げ延びたジオン残党たちと思われる不穏な動きがあるとの情報を得ていた。

その不穏な動きとは、アクシズを警戒する地球連邦軍が設置した、超長距離監視衛星が捕らえたおぼろげな映像によるものだった。その映像を解析した結果、そこに映っていたのは、複数の艦船の集まり、つまり船団の姿だった。カメラの方向、そして解析データと照合した結果、それはジオン残党軍が所持するザンジバル級機動巡洋艦を旗艦とする船団である可能性が高いと判断された。そして、船団の移動方向から割り出されたコースは、地球圏へと向かっていること断定せざるを得なかった。

デラーズ紛争にも関係したと言われるアクシズの船団に対して警戒を続けていた地球連邦軍は、その動きを完全に捕捉さえしていなかったが、この艦船に再びジオン残党に大規模テロの道を選ばせる「何か」が積んでいる可能性も考慮せずにはいられない。しかし、一年戦争の再発を危惧する地球連邦政府からの要請はデラーズ紛争と同様に不審船団への注視と地球圏からの退去要請であった。

そして、アクシズを後にした船団が向かう先として予測されたのは、地球連邦からの独立を維持したものの地方自治体レベルの扱いとなったジオン共和国（サイド3）だった。ジオン共和国の国境付近には、いまだジオン軍シンバが跋扈しているという情報もあったため、その宙域には地球連邦宇宙軍が艦隊を配備し、警戒網を強化していた。

そんな状況の中、月面都市グラナダに駐留していたティターンズ

のアレキサンドリア級重巡洋艦アル・ギザに所属する、エリアス大尉が率いる第7小隊は、近くの宙域を警戒していた地球連邦軍の警戒部隊からの報告を受ける。そして、その情報に部隊の緊張感が高まっていた。

警戒網の拡大に併せて配置されていた哨戒部隊は、グラナダ方面に向けて月面を移動する不審船団のモビルスーツ部隊の存在を感知する。その機影は3機。長距離カメラを搭載した哨戒型のEWACジムは、機影の外観データを照会したところ、地球連邦軍へ登録された旧ジオン公国軍に所属する機体群も含めて機影と一致するものが確認できなかった。その結果、移動するモビルスーツ部隊はアクシズから送られたジオン残党軍である可能性が高まり、ジオン残党狩り部隊として勢力を拡大させているティターンズへと報告が入ったのだ。

5つのラグランジュポイントのうち月に近いL2の警戒網をくぐり抜け、月面を移動することで何者かとの接触を図ろうとするこのモビルスーツ小隊の動きには何らかの意図が感じられた。

そして、常に移動している所属不明機に対し、ティターンズ上層部からは弱腰な地球連邦政府の要請を無視して実機の確保もしくは撃破すべしという命令が、最も近いエリアに駐留していたアル・ギザの部隊に発令される。しかし、アル・ギザでは、全部隊を出撃可能とする戦闘に向けた準備が整っておらず、出撃体制を整えるまでの間は、スクランブルとして即応できる小隊として待機していた第7小隊が先行して出撃することを決定したのだった。

第7小隊は、スクランブルで出撃するにあたり、広大な月面での長距離の戦闘を想定した、通常の編成とは異なるMS部隊を配備していた。隊長であるエリアス大尉が搭乗する機体を含む、ティターンズの主力である「ジム・クウエル」2機。それを長距離の警戒と射撃を担う新型の大出力ロングレンジ・ビーム・ライフルを装備した「ジム・スナイパーII」が援護するという編成であった。そして、さらにある「特殊な機体」が編成に組み込まれていたのだ。

その特殊な機体とは、「ペイルライダーDII」と呼ばれるMSだった。ジム・クウエルに代わる次期主力機を模索していたティターンズは、その流れの中で過去に量産が検討された一部の高性能機を現代的な改修を行って配備する計画を進め、さまざまな実戦データを収集していたのだ。「ペイルライダーDII」は、かつて地球連邦

軍の量産機候補として試作されていた「ペイルライダー・デュラハン」の現代改修型であり、機体の基本設計こそ終戦直後のものだが、最新鋭機と同様の機体制御を行うアビオニクスを搭載し、スラスト周りも強化されたことで、ジム・クウエルを凌駕する性能を発揮。近代的改修を手掛けたオーガスタ基地技術陣の太鼓判を得ての実戦配備がなされていたのだった。

出撃したティターンズの第7小隊は、母艦であるアル・ギザが係留されているグラナダの軍用宇宙港から、輸送艇を使用して出撃。途中地点で敵機の侵攻を後方からの射撃で阻止すべく、射程を活かせる場所にジム・スナイパーIIが降り立つ。そして、所属不明機と対峙するために、ジム・クウエルとペイルライダーDIIは先を急いだ。エリアス大尉は、所属不明機とはいえ、攻撃をしないMSに対していきなり攻撃という選択肢はなく、侵攻を止めさせ、確保するというのがその目的となる。彼の提案する甘い作戦に隊員から失

笑が漏れる。前方から向かってくる機体に対し、ジム・スナイパーIIはいつでも長距離射撃ができるように大型ビーム・ライフルを装備してクレーターに潜む。そして、敵機に近づく役目をジム・クウエル2機が担い、バックアップとして機動性の高いペイルライダーDIIが付くという布陣で行動することになった。

いきなりの攻撃を警戒しつつ、敵機体に近づく2機のジム・クウエル。通常のカメラでもその存在が確認できる距離に入り、ジム・クウエルは光学信号で侵攻の停止を呼びかける。しかし、所属不明機は信号の受信が可能とおぼしき距離においても、その動きを止めることはなかった。

「相手に止まる気はない！」

そう判断せざるをえない状況において、「戦闘開始」という決断を迫られる緊張感が第7小隊の隊員の中に高まっていく。

「停止の意思を見せなければ、攻撃も辞さない」

光学信号を送り続けながら、距離を詰めるジム・クウエルと所属

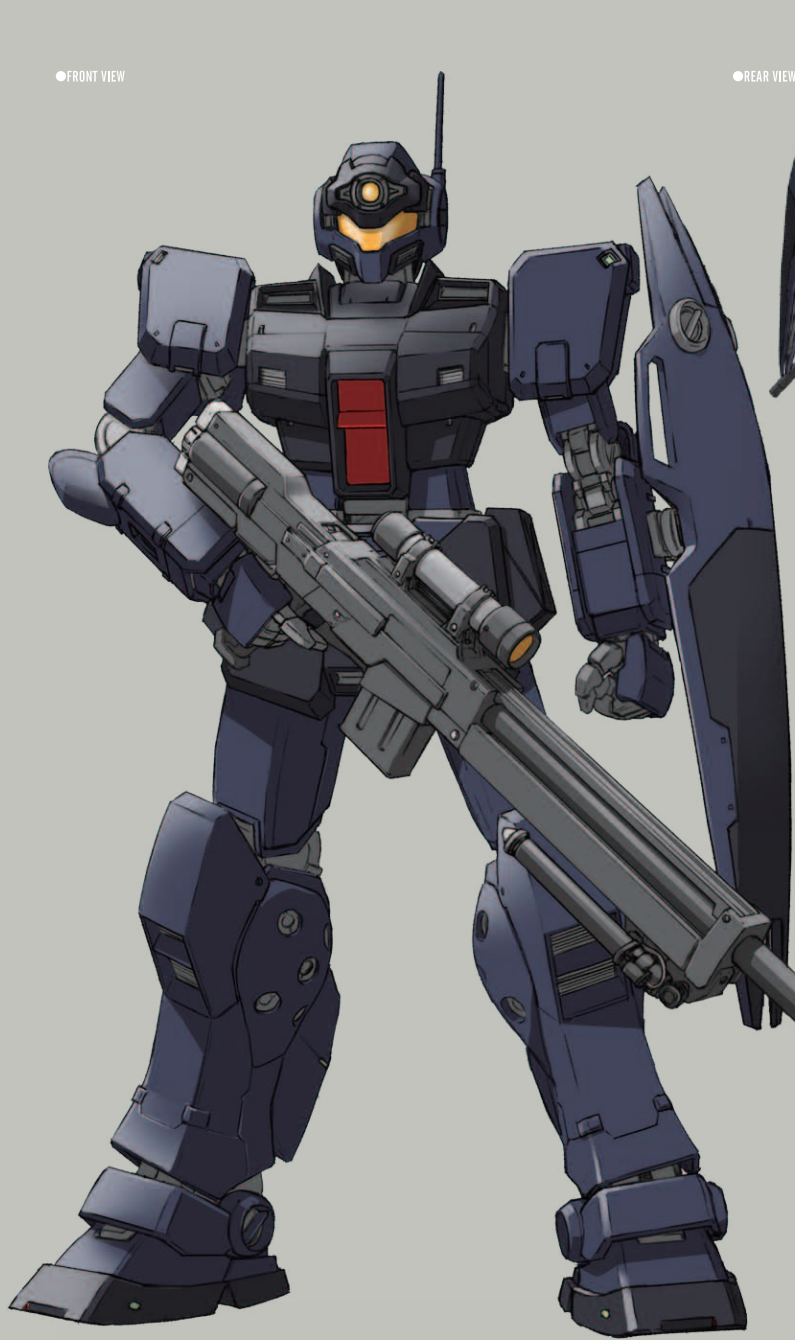
不明機。そして、互いの機影が確認できる距離まで近づいた時、ティターンズのパイロットに戦慄が走る。

所属不明機3機のうち、そのシルエットから2機はガルバルディタイプであることを確認。ガルバルディは、旧ジオン公国軍が一年戦争末期にベスン計画で完成させた幻のモビルスーツであり、当時最新鋭であったゲルググの次世代後継機と目されていた。ゲルググタイプを上回る性能を有することから、地球連邦軍が接収し、それをベースに改修を加えたガルバルディβが実戦配備されていたため、そのベースとなったガルバルディαとされる機体をジオン残党が所有しているのも不思議はなかった。しかし、問題となるのは、中央を走る機体だった。

指揮官機らしいもう1機のモビルスーツは、赤いカラーリングが施されたドムタイプのモビルスーツであった。その姿を視認してしまつと、連邦軍兵士ならば「赤い彗星のシャア」を想起せずにはいられなかった。

Illustration / MORUGA

●FRONT VIEW



●REAR VIEW



RGM-79ジムの機能向上機であるRGM-79SPジム・スナイパーカスタムの発想をもとに、オーガスタ系のジム・コマンドをベースに狙撃用に特化する形で再設計した機体。精密射撃用のレーザーセンサーと光学式カメラシステムを装備することで、長距離射撃性能が向上している。その射撃性能と機体性能の高さが評価されており、狙撃任務用として一年戦争以降も長期にわたって運用されていた。ティターンズに配備された機体は、近代改修型となっており、さらなる長距離射撃に対応可能な新型の光学式カメラシステムを採用。射撃距離の長いロングバレルのL-9ビーム・ライフルを装備することによって、より長距離での精密射撃が可能となっている。

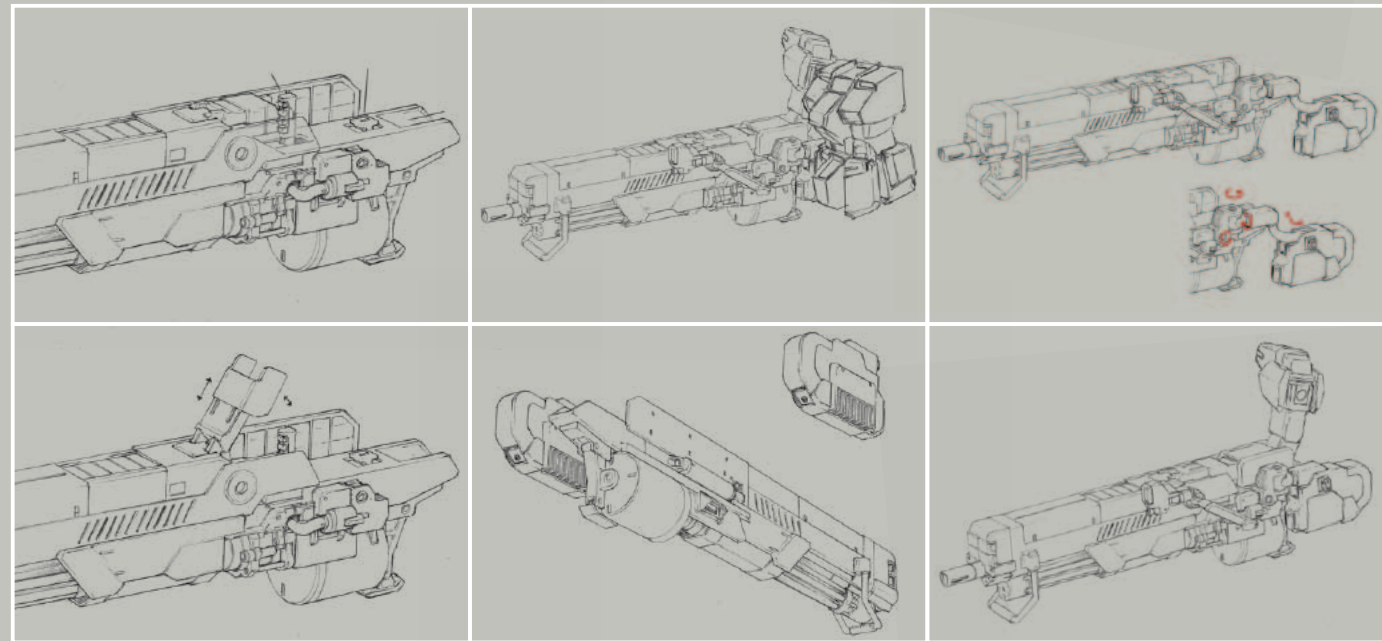
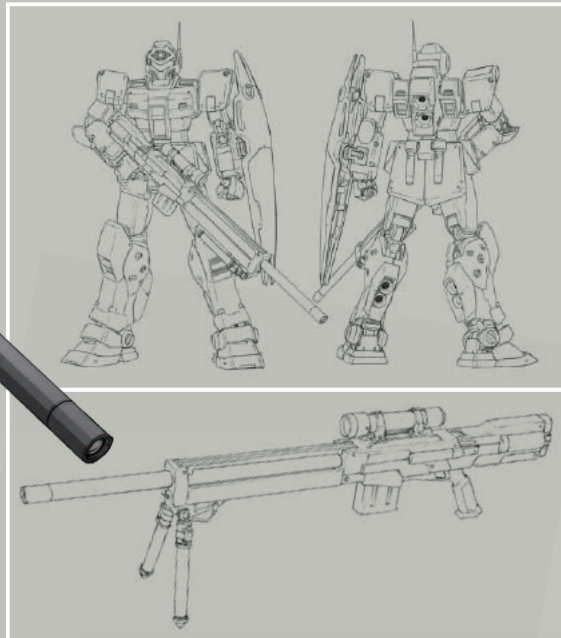
[DATA] ●頭頂高／18.0m ●本体重量／45.0t ●全備重量／61.0t ●ジェネレーター出力／1,390kw ●スラスター総推力／102,000kg ●センサー有効半径／11,500m ●装甲材質／チタン系合金 ●武装／L-9ビーム・ライフル、ビーム・サーベル、シールド

TITANS

RGM-79SP

GM SNIPER II

〔ジム・スナイパーII (ティターンズ仕様)〕



「ペイルライダー計画」で開発されたRX-80PR-3 ペイルライダー・デュランの流れを汲む機体。RX-80PR-2 ペイルライダー・キャバルリーから「HADES (Hyper Animosity Detect Estimate System)」と呼ばれる特殊システムを外したモデルのRX-80PR-3 ペイルライダー・デュランは、ファーストロットのパーツを使い潰して実機が消失していた。しかし元々、ペイルライダー自体がRGM-79SPジム・スナイパーIIをベースにG4計画の技術などを盛り込んだ機体だったため、新たにセカンドロットとしてパーツを用意することで復元され、同時にセンサー類の増強やリニア・シートの採用など、U.C.0084年の近代化改修が行われたのがペイルライダーDIIである。ジャイアント・ガトリングとメガ・ビーム・ランチャーの機能を併せ持つ複合武装「シェキナー」を装備することで、中距離での射撃と砲撃、そして高い機動性を駆使した近接戦闘という多目的戦闘に対応することが可能となっている。

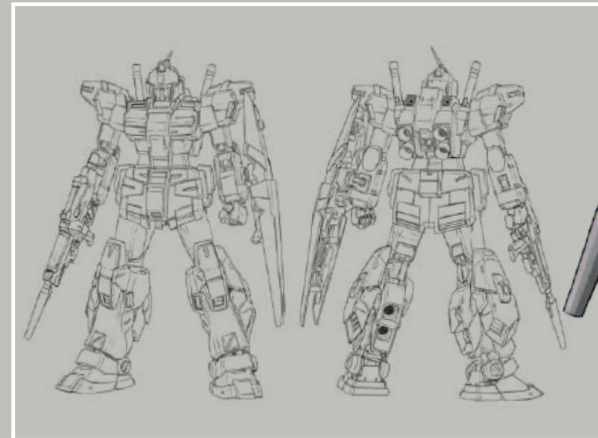
[DATA] ●頭頂高／18.0m ●本体重量／43.7t ●全備重量／56.7t ●装甲材質／ルナ・チタニウム合金 ●武装／複合型特殊武装シェキナー、ビーム・ライフル、ビーム・サーベルx2、シールド

TITANS

RX-80PR-4

PALE RIDER DII

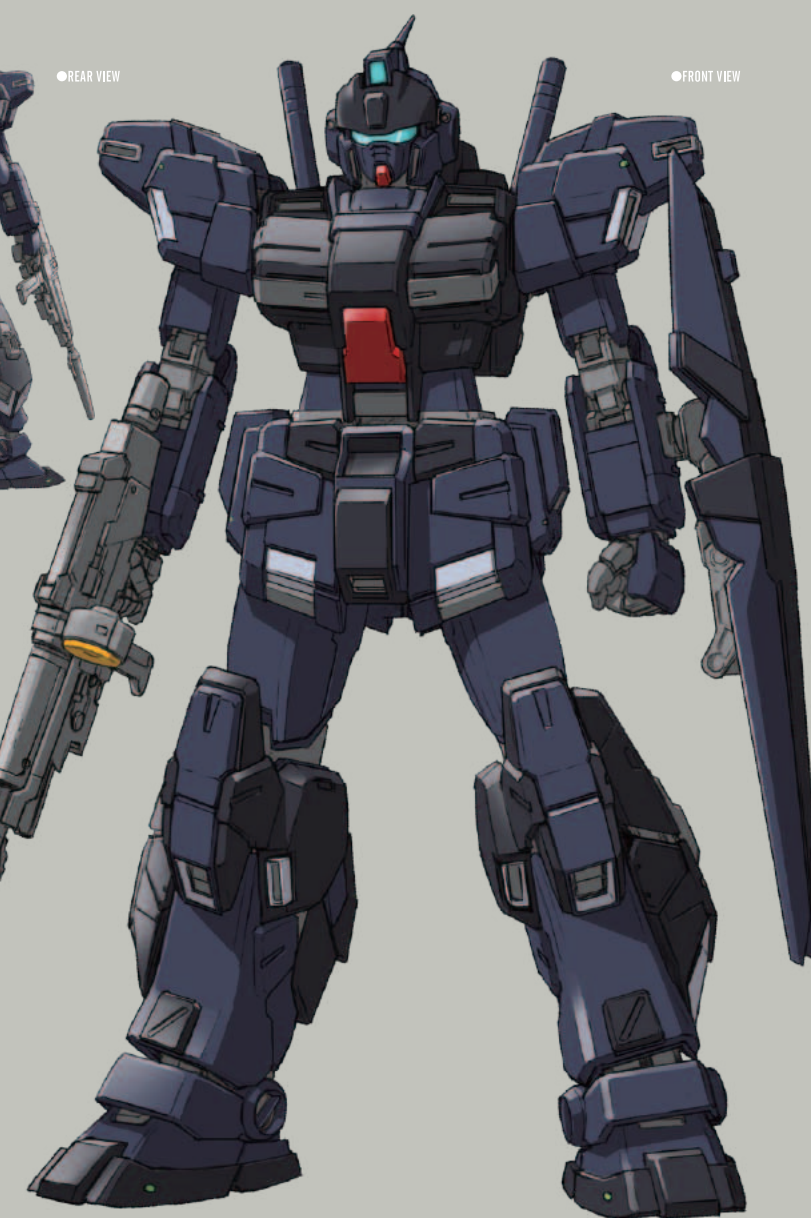
〔ペイルライダーDII (ティターンズ仕様)〕



●REAR VIEW



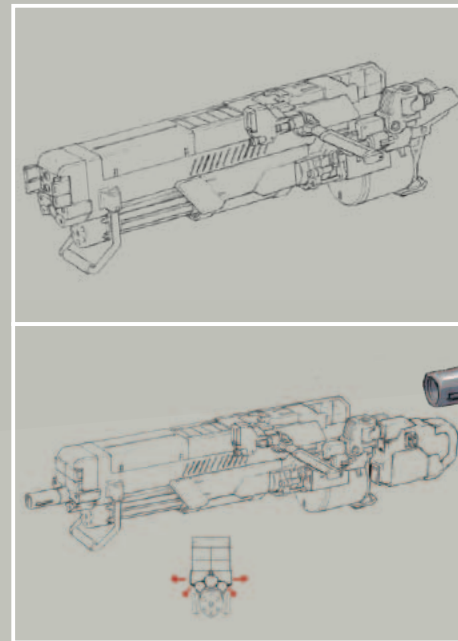
●FRONT VIEW



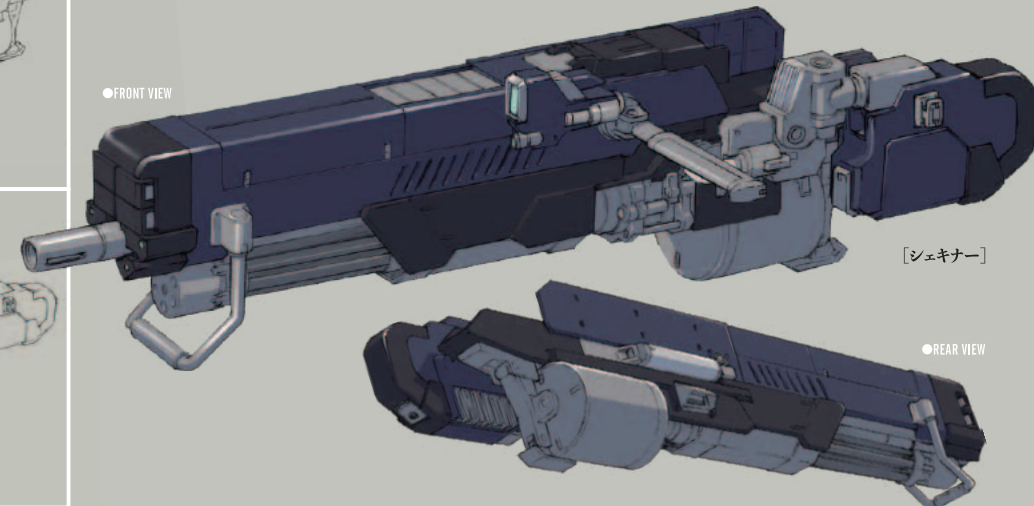
アナハイム・ラボラトリー・ログ

〔第2話：モビルスーツ解説①〕

Mechanic Design／瀧川虚至 Kyoshi TAKIGAWA



●FRONT VIEW



〔シェキナー〕

●REAR VIEW